

令和 2 年度
水産資源調査・評価推進委託事業のうち国際協調型調査事業のうち鯨資源調査事業
(北太平洋鯨類生態調査・IWC-POWER) 成果報告書

【受託者】

住 所 東京都中央区豊海町 4 番 5 号

氏 名 一般財団法人 日本鯨類研究所

1. 目的

本調査の目的は、主に北半球産鯨類の分布、豊度解析及び系統群判別に必要な以下の情報の収集である。今年度は、国際捕鯨委員会 (IWC) / 科学委員会 (SC) の調査研究要請に基づいた課題を優先事項として、IWC と日本の共同調査である「IWC/POWER (Pacific Ocean Whale and Ecosystem Research)」航海において、IWC が約 30 年間、南半球で確立した IWC/IDCR-SOWER 調査の目視調査方法を踏襲したライントランセクト方法を用いた目視調査、自然標識撮影実験、バイオプシーサンプル採取等の情報収集を行った。

- (1) イワシクジラ、ザトウクジラ及びコククジラの詳細資源評価に関する情報収集
- (2) 希少種である西太平洋のセミクジラ及びシロナガスクジラに関する情報収集
- (3) 資源情報が不足しているその他の鯨類資源について資源量と系群構造に関する情報収集
- (4) 本調査の中長期計画を策定するために必要な情報収集

2. 調査体制

本調査は、水産庁長官が一般財団法人日本鯨類研究所に委託し、それに基づいて第二勇新丸(747 トン、共同船舶株式会社所有)を用船して実施した。

3. 調査期間

令和 2 年 7 月 11 日 塩釜出港

調査は、7 月 18 日～8 月 12 日及び 8 月 26 日～9 月 17 日

令和 2 年 9 月 24 日 塩釜入港

4. 国際調査員

国際調査員として、5 名が乗船した。

なお、新型コロナウイルスによる渡航規制の影響を受け、乗船予定だった米国人調査員 2 名の入国許可が下りなかったため、IWC との事前合意に基づき本年度は日本人のみの参加となった。

5. 調査海域

調査海域は、北緯 40 度以北、東経 160 度以東、180 度以西の外国の排他的経済水域を除いた海域とした。

6. 調査結果

目視調査（通過方式及び独立観察者方式）の総探索努力量は 2,424.3 哩であり、全鯨類の発見群頭数は 416 群 3,434 頭であった。

自然標識の撮影はシロナガスクジラ 26 頭、ナガスクジラ 1 頭、ザトウクジラ 3 頭、シャチ 17 頭について行った。

バイオプシーサンプルはシロナガスクジラ 13 頭、ナガスクジラ 9 頭、イワシクジラ 38 頭、ニタリクジラ 2 頭、ザトウクジラ 2 頭、シャチ 2 頭から採取した。

7. 調査記録等の保管

全ての記録類は調査終了後、一般財団法人日本鯨類研究所資源管理部門でデータ確認が行われ、保管される。

また本調査のデータは IWC 事務局へも提供される。バイオプシー標本は、IWC 標本を米国 NOAA/SWFSC が、日本の標本は一般財団法人日本鯨類研究所がそれぞれ保管する。調査結果は IWC 科学委員会等へ報告される。

表 1. 調査航海における種別発見群頭数及び調査実施頭数

鯨種	発見		自然標識撮影 (頭)	バイオペシー採取 (頭)
	群	頭		
シロナガスクジラ	22	31	26	13
ナガスクジラ	29	32	1	9
ナガスクジラらしい	2	2	0	0
イワシクジラ	131	181	0	38
イワシクジラらしい	12	12	0	0
ニタリクジラ	6	8	0	2
ニタリクジラらしい	1	1	0	0
イワシ／ニタリらしい	1	1	0	0
ミンククジラ	3	3	0	0
ザトウクジラ	7	8	3	2
マッコウクジラ	56	90	0	0
アカボウクジラ	1	5	0	0
種不明オウギハクジラ属鯨類	4	9	0	0
種不明アカボウクジラ科鯨類	4	8	0	0
シャチ	18	71	17	2
ハナゴンドウ	3	128	0	0
スジイルカ	4	326	0	0
マイルカ	40	1,587	0	0
カマイルカ	9	374	0	0
セミイルカ	3	197	0	0
イシイルカ型イシイルカ	15	100	0	0
型不明イシイルカ	17	88	0	0
種不明ゴンドウクジラ鯨類	1	18	0	0
種不明イルカ類	4	121	0	0
種不明鯨類	4	10	0	0
種不明大型ヒゲクジラ類	18	22	0	0
種不明大型鯨類	1	1	0	0
合計	416	3,434	47	66